

知的財産戦略本部会合

議事録

日 時:令和元年9月3日(火)9:40~10:10

場 所:官邸4階 大会議室

○平井知的財産戦略担当大臣 皆さん、おそろいのようにございますので、ただいまから「知的財産戦略本部」を開催します。

皆様方におかれましては、お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は、小谷本部員と清水本部員が御欠席でございます。また、安倍総理は途中からの御出席となりますので、どうかよろしくお願いたします。

本日の議題は、「クールジャパン戦略」及び「構想委員会の開催等」についてであります。

「クールジャパン戦略」については、資料1をごらんください。

1 ページに記載されているとおり、クールジャパンについては、2012年12月の第2次安倍内閣発足と同時に、内閣府にクールジャパン戦略担当大臣が設置されて以降、内閣府が総合調整を行いつつ進められてきました。

2 ページに示しているとおり、これまで「情報発信」「海外展開」及び「インバウンド振興」を大きな柱としつつ、幅広い分野を包含しながら取り組みが行われております。

3 ページをごらんください。クールジャパンは成果も上げてきておりますが、デジタル化・グローバル化の進展やそれに伴うメディアの変化、日本に関する深い知識を有する外国人の増加などの環境の変化を踏まえ、クールジャパンの取り組みをさらに強化するため、戦略の策定に向けた検討を進めてまいりました。

検討に際しては、11カ国19人の外国人との懇談会や、外国人もメンバーとなったワーキンググループなどにおいて、外国人の目線を入れることを意識してまいりました。その結果、3 ページに掲げてあるような課題が抽出され、クールジャパン戦略の方向性が明らかになってまいりました。

クールジャパン戦略が目指す姿をまとめたものが4 ページになります。まず、クールジャパンの目的を、世界の共感を得ることを通じ、日本への愛情を有する日本ファンである外国人をふやすことで日本のソフトパワーを強化することと定義しております。ページ下部にある5つの施策を通じ、この目標を達成していきたいと考えております。

具体的な施策の方向としては、5ページをごらんください。まずは、国全体の整合性を図るため、知的財産戦略本部に加え、クールジャパン戦略担当大臣と関係省庁の副大臣による「クールジャパン戦略会議」を設置し、機能させていくことで、中央省庁レベルの横連携を強化したいと考えております。

次に、個別分野の深掘りはクールジャパンの持続性確保の上で重要です。特に、多くの魅力が眠っている地方の魅力を磨き上げるため、地方や中小事業者の方々への訴求を工夫することで、クールジャパンの取り組みをさらに広げていきたいと考えます。

6ページですが、クールジャパンを進める上で、日本の持つ「間口の広さ」と「奥深さ」の活用が重要だと考えております。個別のコンテンツではなく、その先にある「日本的な何か」が外国人を引きつける本質であり、「入り口」として間口を広げつつ、「深み」を探求することで日本ファンをふやすことが重要です。

3つ目の施策は、7ページであります。幅広い連携を図るためのネットワークづくりです。各地で行われている取り組みがネットワーク化されることで、クールジャパンの取り組みがさらに進むと考えております。関係者をネットワーク化し、それを機能させるため、中核的な機能を担う組織が民間で必要であると考えており、内閣府とその中核的な組織が協力しつつ、国全体の整合性を図ってまいりたいと考えます。

4つ目の施策は、8ページですが、日本ファンを効果的にふやすための工夫です。外国人といっても「日本に関心のない外国人」「日本に一定の関心のある外国人」「日本に愛情を持つ日本ファン」がおり、それぞれに対して異なるアプローチが必要です。相手方の関心に沿うよう、効果的に情報を発信することで、日本ファンになってもらい、クールジャパンの取り組みの主役になってもらいたいと考えております。

最後に、9ページですが、知的財産の活用を後押しする取り組みです。クールジャパンを進めるため、知的財産の適切な保護と利活用を促す仕組みが重要であると考えております。

次に、「構想委員会の開催等」については、資料4～6をごらんください。

昨年6月に知的財産戦略本部で決定した「価値デザイン社会」の実現に向けて、中長期の方向性及び具体的施策について有識者の皆様に御議論いただく委員会として、現在の「検証・評価・企画委員会」及び「知的財産戦略ビジョンに関する専門調査会」を統廃合し、新たに「構想委員会」を開催することとするものです。

私からは以上でございます。

次に、「検証・評価・企画委員会」の座長から、御発言をお願いいたします。

渡部座長、お願いいたします。

○渡部検証・評価・企画委員会座長 ありがとうございます。渡部でございます。

2020年オリパラ、2025年大阪万博など、国際イベントが集中するこの時期に、新たなクールジャパン戦略が始動することは、我が国にとって大変大きな意義があることと思っております。

プロダクトアウトの発想ではなく、魅力あるストーリーとともに、世界の視野にしっかりと映える価値を提供することが肝要であります。そこには、伝統工芸やポップカルチャーはもちろん、日本らしい社会の仕組みや日本を象徴する学術資産のようなものもソフトパワーとして大いに貢献することと思えます。

これらをビッグデータ化して、AIを用いたさまざまなサービスを生み出すことができれば、国境を越えた日本の価値の提供が可能になり、ブランドとなることと思えます。

ぜひ、新たなクールジャパン戦略を、全省庁を横断する形で展開し、大きく育てることができればと思えます。

以上でございます。

○平井知的財産戦略担当大臣 ありがとうございます。

それでは、意見交換に移ります。

最初に、各閣僚から御発言をいただきます。

まず、法務大臣、お願いいたします。

○山下法務大臣 クールジャパン戦略は、イノベーションの創出や、我が国の産業の国際競争力の強化を図るとともに、日本全体のブランディング戦略の側面も有しております。そのためには、構成する個々のコンテンツに関する知的財産が適切に保護されることが重要であり、知的財産制度を中心に、多様な観点から総合的に対策を講じていく必要があります。

複雑多様化する知的財産の保護及び利活用については、民事基本法制や紛争解決インフラの整備等が密接に関係しているところ、法務省としてもこれを所管する立場から、必要な協力を行ってまいります。

また、才能ある外国人が日本に集まり、クリエイティブな活動を含めたさまざまな活動が行われるような環境を整備するため、関係府省庁と協力し、外国人の方々に対する情報提供の取り組みの強化を図るとともに、在留資格に係る運用の明確化など、外国人の受け入れに関する運用の改善等に努めてまいります。

以上です。

○平井知的財産戦略担当大臣 ありがとうございます。

次に、外務大臣、お願いします。

○河野外務大臣 文化は外交の中でやはり重要なツールだろうと思えます。漫画、アニメから日本語を学ぶようになりましたという若者が、どの国でも相当いらっしゃいます。訪日してくれた外国人がさらに日本ファンになりましたという話もよく聞きます。

ただ、一方で、各国の首脳、外務大臣レベルには、技術の日本という先入観がまだあるようなのですが、会談では技術の日本、技術の日本と言ってくれながら、その後、食事の際に、それで最近日本って自動車以外に何をやっているのですかという話何カ国かから出ました。

漫画、アニメ、和食に続く文化コンテンツの太い柱がいずれ必要になるだろうと思いま

すし、技術、経済の再活性化は、やはり真剣に取り組んでいかなければいけないことだろうと思います。

以上です。

○平井知的財産戦略担当大臣 ありがとうございます。

次に、文部科学大臣、お願いします。

○柴山文部科学大臣 その一つのヒントになるかどうかわかりませんが、文部科学省でもクールジャパン戦略を踏まえて、戦略の実現に向けて積極的に貢献してまいります。

特に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトのもとで、日本が誇るさまざまな文化を、四季折々、年間を通じて体系的に展開し、国内外に発信する「日本博」の推進、文化財の多言語解説の整備や日本アートの国際発信力強化、知的財産の活用を後押しする取組として、海賊版対策の強化を初め、著作権の保護などに引き続き取り組んでまいりたいと思います。

以上です。

○平井知的財産戦略担当大臣 次に、農林水産大臣、お願いします。

○吉川農林水産大臣 本戦略案にあるとおり、外国人が食などの興味から日本への関心を深め、日本ファンになっていただくとともに、日本のブランド力を高めるというクールジャパン推進の方向性は、極めて重要であります。

農林水産省におきましては、これまでも、食と文化の魅力で農泊地域に訪日外国人を呼び込む「SAVOR JAPAN」や、海外での「日本産食材サポーター店」など、さまざまな手法により、日本食や日本産食材の情報を発信してきました。

さらに、本年度から、観光庁等の協力も得て、訪日外国人が食と芸術、歴史等をかけ合わせた体験をして、日本の食への関心を高めてもらい、輸出拡大にもつなげる「食かけるプロジェクト」を始めたところでございます。

今後とも、内閣府を初め、関係省庁や本戦略に基づく民間組織等と連携をして、クールジャパンの推進に取り組んでまいります。

○平井知的財産戦略担当大臣 次に、経済産業大臣、お願いいたします。

○世耕経済産業大臣 東京オリンピック・パラリンピックや大阪・関西万博で日本への視線が集まる機会を捉えて、クールジャパンの考え方をさらに浸透させていくために、地方、海外も含めて、幅広い日本文化の担い手のネットワークを構築していくという今回の「新たなクールジャパン戦略」の取り組みは重要だと考えております。

経産省としては、これまで培ってまいりました国内外のさまざまな民間企業とのチャンネルを利用しながら、クールジャパン機構やJETRO、関係省庁との連携を深めて、クールジャパン政策の推進に貢献してまいりたいと考えています。

クールジャパン機構が、特に最近コンテンツに軸を置いた投資を重視しております。こういった改革もしっかり進めていきたいと考えています。

○平井知的財産戦略担当大臣 ありがとうございます。

次に、国土交通大臣、お願いします。

○石井国土交通大臣 国土交通省としては、SNS等を活用した訪日プロモーションによる我が国の魅力発信、外国人目線に立った文化財の多言語解説の充実など、観光資源の魅力向上といった観光戦略を着実に推進いたしまして、より多くの外国人に日本を訪れていただき、実際に我が国各地の魅力に触れていただくことにより、クールジャパン戦略に一層貢献してまいります。

以上です。

○平井知的財産戦略担当大臣 ありがとうございます。

次に、有識者本部員より御発言を順次お願いしたいと思います。

それでは、まず林いづみ本部員、お願いいたします。

○林いづみ本部員 クリエイターの生産性を上げるためには、クリエイターに対する正当な利益の還元が必要だと思います。そのためには、第1に、優越的地位の濫用にならないような契約実務への転換。第2に、インターネット上のコンテンツ流通のためのコンテンツのメタデータ化の整備。第3に、各国で既に導入されている真に効果的な海賊版対策の導入を先延ばしにしないこと。そして、最後になりますが、クールジャパンには、「日本文化の翻訳家」となる外国人の方々の協力が必要であります。

英語圏の人々に『源氏物語』の魅力が伝わったのは、アーサー・ウェイリーの卓越した英訳のおかげであると言われております。世界各国のさまざまな世代の人々に日本文化をもっとよく知っていただくためには、双方向のコミュニケーションを深めるネットワークを積極的につくっていくことが必要だと思います。

そのためには、今後、クールジャパン戦略会議や連携強化ネットワークにおいて、外務省の在外公館などが持っていらっしゃる世界各地の人的ネットワークや情報が十分に活用されることを期待いたします。

○平井知的財産戦略担当大臣 次に、山本本部員、お願いいたします。

○山本本部員 私のほうから、2点申し上げさせていただきます。

まず、今回の戦略は非常に魅力的なものに仕上がっていると思っております。クールジャパンという言葉も国民の間に浸透していますし、いよいよ政府主導から民間主導のフェーズに来たと感じます。

一方、クールジャパンを昔のコンテンツ振興策というイメージで捉えている方もまだ多くおられると思います。民間主導で、多様な日本文化をアピールするとともに、「世界の共感を獲得し、それをベースに日本のソフトパワーを活用する」という狙いを、国民に対してもっとアピールすべきだと思います。

もう一点は、地方活性化施策とリンクした活動にすべきだということでございます。クールジャパンに関連して、既に各所で取り組みが行われておりますが、これらの活動をメッシュのようにつなげていくべきだと考えております。

その観点で、戦略で言及されております中核的な機能はとても大切だと思っております。

政府の骨太の支援を期待しております。

以上でございます。

○平井知的財産戦略担当大臣 ありがとうございます。

次に、川上本部員、お願いします。

○川上本部員 クールジャパンは文化ですから、文化そのもののあり方に政府が介入するのは難しいわけです。したがって、政府に期待されるのは、クールジャパンが健全に発展できる環境づくりということになります。

その意味で、昨年来、知財本部で取り組んでいる海賊版対策についてですが、法制化まで至っていないということがメディアでは強調して報道されていますけれども、現実として、コンテンツ業界は大変に助けられているということ、この場をかりて述べさせていただきます。

政府の海賊版緊急対策が発表された昨年4月13日以降、デジタルコンテンツの売り上げは顕著に伸びています。特に漫画を中心とする電子書籍の売り上げの伸びは目覚ましく、長年、全体としては右肩下がりであった出版業界の業績が昨年度回復した最大の原動力となっています。

電子書籍の売り上げが急上昇した理由は2つあります。

一つはブロックチェーンも辞さないという政府の断固とした姿勢を見て、これまで捕まることがなかったとたかをくくっていた海賊版のサイトの運営者が危機感を覚え、巨大海賊版サイトが自主的に閉鎖されたことが最大の理由です。

もう一つ後押ししたのは、電子書籍サイト、電子コミックサイトの各社が、海賊版がなくなったことによって安心してテレビCMなどの大々的なプロモーションを争って行ったからです。利益を守るだけでなく、未来への投資ができるようになり、電子書籍マーケットがますます拡大しました。

クールジャパンの産業を守るという意味だけではなく、新しいクールジャパンの産業をつくり出すという意味においても海賊版サイトのようなアンフェアな存在は許してはいけないということが確認されました。

私自身が海賊版タスクフォースの委員の一人として参加できたことをうれしく思うとともに、昨年の政府の英断に感謝をいたします。

○平井知的財産戦略担当大臣 ありがとうございます。

それでは、林千晶本部員、お願いします。

○林千晶本部員 クールジャパン戦略において、今回、礎がしっかり整理されたことはすごくうれしく思っており、その上で、クールジャパンはハードとソフト両方を合わせて表現することだと思えるのですが、その中で、デザインというものがますます重要になってくると思います。

昨年5月に私たちも、梅澤本部員も一緒だったのですが、デザイン経営戦略というものを発行させてもらっています。それは、デザインが経営の資源であるということ、初め

て明確に宣言したものなのです。

今年度、特に大企業あるいはスタートアップもあるのですが、日本の9割の中小企業を中心に、デザイン経営をどうやって浸透させるかということにこれからデザイン界も力を入れていこうと思っているので、そういった点で、引き続き政府とも連携できるとうれしく思っています。

以上です。

○平井知的財産戦略担当大臣 ありがとうございます。

山田本部員、お願いします。

○山田本部員 山田でございます。

私は宮城でものづくり企業を経営しております。今までクールジャパンとはほぼ無関係であると感じていましたけれども、今回の新たな戦略は非常に興味深く拝見しています。

メイド・イン・ジャパンは高品質の代名詞として認識されてきましたが、最近、海外製品も非常によいものが出てきています。今後は、単なる技術的な比較だけではなく、ものづくりにおけるすぐれた技術や日本的な細やかな心遣いなどをクールジャパンとして位置づけることで、新しい付加価値を生み出せるのではと期待しています。

全国に独自の技術を持った中小製造業が存在し、クールジャパン戦略においても重要な役割を果たす可能性があります。しかし、ものづくり企業、特に地方の中小企業は、自分たちの製品のどこがクールなのか、クールとは何なのか分からないのが現状です。

今後、その戦略の意義や目的について十分な浸透を図り、クールジャパンとなり得るものの掘り起こしや販売戦略作成ができるアドバイザーの配置など、環境整備が必要です。

新たなクールジャパン戦略が日本製品の魅力の再発見、販売促進、そして地域の活性化につながることを期待しています。

○平井知的財産戦略担当大臣 ありがとうございます。

次に、迫本本部員、お願いします。

○迫本本部員 私は、これまでもコンテンツを初め、知財にかかわらせていただいていたのですけれども、ここ数年、本当にいい方向に進んでいるのではないかと感じておりまして、総理を初め、皆様のリーダーシップに本当に感謝を申し上げている次第です。

一番大きなところは、ずっと申し上げていたのですけれども、なぜ今、厳しい財務状況の中で、知財コンテンツ等に取り組むかということをはっきりさせることが必要かなと。それは、文化や経済的波及効果もあるのですけれども、やはりこれによって、直接日本の国益に資する。例えば、アメリカ映画を世界中の人が見てくれることによって、アメリカ人がどれだけ得をしているかということを考える必要があるので、ここをはっきりさせた。資料1の3ページにこれまでの成果の取り組みが書いてありますけれども、ソフトパワーを認識して、これだからここに行くのだということをはっきりさせたということが一番大きなことかなと思っています。

そして、それにどのように取り組むかというときに、これまではクールジャパンは、ど

ちらかという個別のコンテンツの助成ということもあったのですが、やはり個別のコンテンツは誰が助成すると決めるかという問題があるので、国のかかわりとしては、基盤整備づくりというところに軸足を置くべきだという意味で、4ページに書いてありますように、枠組みのところに行くということがはっきりしたということも大きなことではないかと思っております。

それから、これまでいろいろかかわらせていただいていた、いつも限界に感じていたのは、省庁の縦割りと単年度予算ということだったので、4ページに書いてありますように、連携強化、そして7ページには官民の連携ということも含めて、連携強化で省庁縦割りの弊害が是正され、しかも長期的な取り組みということで、検証委員会から構想委員会方式になっていくということで、非常に知財への向き方がいい方向で進んでいるなど私は感じております。

ぜひ、我々も微力ですが、応援してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○平井知的財産戦略担当大臣 ありがとうございます。

次に、五神本部員、よろしくお願いいたします。

○五神本部員 ありがとうございます。

クールジャパン政策がスタートしたころ、2012年はまだ価値の主たる源泉がモノであって、クールジャパンの対象もやや限定的に捉えられたように感じます。

しかし、今は価値の源泉はモノから知識、情報といった無形のものに完全にシフトしています。これは未来投資会議でも議論しましたが、知識集約型へのパラダイムシフトが起きているのです。

一方で、我が国が培ってきた高度な科学技術や学術文化は、多くのノーベル賞を獲得するなど、非英語圏としては明らかに突出しており、世界から大変注目されてきました。そのことは、東京大学総長として世界各国の方々と交流をしても感じます。

パラダイムシフトを捉えて、クールジャパンの意味を、ここで戦略的に再定義する必要があります。

ソフトパワーによって、ハイエンドな人材を海外から引き寄せて、価値創造に資する重要な役割を共同で担っていくこと、そこに民間の投資を呼び込んで、ものづくりのポテンシャルも活用し、人口減少下でも持続的に成長する産業構造をつくることなど、文化・観光産業への寄与などにとどまらず、我が国の成長戦略全体に資する戦略としてこのクールジャパンを捉え、強化する必要があります。

そのような視点で、いま直ちにやるべきことも数多くあります。たとえば日本研究の強化です。1979年、エズラ・ボーゲル氏による『ジャパン・アズ・ナンバーワン』が刊行されて、欧米の研究者たちが競って日本を研究しました。日本の経済成長に目を見張り、日本型経済を熱心に研究し、日本にイノベーションのヒントを求めたのです。

しかし、昨今、日本への関心の喚起に貢献してきた海外の日本学研究者は急速にその数を減らしています。これらの著名な研究者たちは日本をよく理解し、非常に大きなサポーターでありましたので、その減少には海外の研究者も憂慮している状況です。

今ならばまだ間に合いますので、国の戦略として、世界に向けた日本学の研究拠点を強化すべき必要があります。今一度クールジャパン戦略をグレードアップし、個々の施策を強力に推進すべきです。

以上です。

○平井知的財産戦略担当大臣 ありがとうございます。

最後に、梅澤本部員、お願いいたします。

○梅澤本部員 ありがとうございます。

懇談会、ワーキンググループに参加させていただきました。

このようなわかりやすい形でまとめていただいて、事務局には本当に感謝をしています。

先ほど平井大臣から、これから中央省庁の横連携をさらに強化していこうというお話がございました。それに関して、今後の検討を期待する項目を幾つか述べさせていただきます。

例えば、1つ目、文化庁です。文化経済戦略を打ち立てていただいて、文化GDPの目標を設定し、文化芸術産業を振興するという戦略の方向性は大賛成です。ただ、一つ残念だったのが、アクションプランを見ると、芸術とか工芸とか劇場などというキーワードは頻出するのですが、建築やアニメ、ゲームが出てこない。日本の文化資産で最も競争力が高いのはアニメ、漫画、ゲーム、それから和食、建築、デザインのあたりです。なので、この辺もしっかり取り込んだ文化芸術産業の振興という形に深化していただけないでしょうか。

2つ目、観光庁です。私自身も委員として参加させていただいていますが、文化観光をもっと強く打ち出していけないでしょうか。今後の8兆円あるいは15兆円の目標を考えると、富裕層の取り込みが必須で、富裕層が消費するものは文化と自然です。それから、コト消費にシフトしなければいけないと言っていて、ここでも文化が中心です。なので、これからのテーマとしてさらに押していただければと思います。

3点目、外務省へのお願いです。ぜひ文化外交を外交の主軸に据えていただきたいと期待しています。

先ほどお話がありましたように、アニメ、漫画、和食の次ということで、少なくとも建築やデザインという資産もあります。

もう一つは、在外公館のネットワークもとても有効なのですが、文化外交をリードできる人材の獲得と育成にも組織的に取り組んでいただく必要があるのではないかと感じています。

最後に、農水省へのお願いです。食産業全体の海外展開という形でかじを切れないでしょうか。世界の食産業はざっと800兆円ぐらいの市場規模があります。仮に3%とれば25兆円です。1兆円の農水産品の輸出促進という目標ももちろんいいのですが、25兆

円とれば、おのずから日本から高付加価値品の輸出がついてくるという発想に、さらに拡張していただくということはできないかと期待しております。

以上です。

○平井知的財産戦略担当大臣 貴重な御意見をありがとうございました。

それでは、一通り御意見をいただきましたので、議論はここまでとさせていただきます。それでは、「クールジャパン戦略」及び「構想委員会の開催等」について、本案のとおり、知的財産戦略本部決定及び本部長決定としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

○平井知的財産戦略担当大臣 ありがとうございます。

それでは、本案のとおり決定いたします。

最後に、本部長である安倍総理から締めくくりの御発言をいただきたいと思いますので、プレスを入れてください。

(報道関係者入室)

○平井知的財産戦略担当大臣 それでは、総理、よろしくお願いいたします。

○安倍内閣総理大臣 本日、政府としては初めてとなるクールジャパン戦略を決定しました。

クールジャパンは、経済成長のみならず、我が国のソフトパワーの強化に貢献する政策であり、国際社会におけるプレゼンスを維持し続けるための重要な施策であります。

加えて、地方や中小企業も、世界と直接つながることができる。その魅力を世界に向かって効果的に発信することで、全国津々浦々、地方創生につなげていくことも可能です。

今月、我が国で初めてのラグビーワールドカップが開催されます。そして、来年には東京オリンピック・パラリンピック、2025年には大阪・関西万博が控えておりまして、まさに世界の注目が集まる今後の5年6年となるわけでございます。私たちはこのチャンスをいかしていかなければなりません。

議員の皆様から、様々な御意見をいただきました。その御意見を基に戦略を立てさせていただいたわけでありますが、その戦略の上にしっかりと政策を乗せて実行していくことが大切だろうと思います。

この機会を捉えて、関係閣僚は、クールジャパン戦略担当大臣を中心に、本日決定した戦略に基づく取り組みを進めて、正に省庁縦割りを排し、政府一丸となって取り組んでいただきますように、よろしくお願いいたします。

○平井知的財産戦略担当大臣 ありがとうございました。

それでは、プレスの方は御退室をお願いします。

(報道関係者退室)

○平井知的財産戦略担当大臣 ただいま、安倍総理から御発言がありましたとおり、関係省庁一丸となりまして、本日決定いただいた「クールジャパン戦略」の実施に向けて進めてまいりたいと思いますので、引き続き、御協力をお願いいたします。

以上で、知的財産戦略本部を閉会いたします。
ありがとうございました。